

第9回 能美市タウンミーティング

平成29年7月27日（水）19:30～22:00

栗生町公民館

【司会】

ただいまから栗生小学校区のタウンミーティングを始めさせていただきます。

まず初めに、ご参加の皆様を代表しまして、栗生町町会長様にご挨拶をいただきたいと思います。

【栗生町町内会長】

きょうは平日の木曜日の晩ということで、昼のお仕事の関係上、忙しい時間帯にもかかわらず、たくさん出席していただきまして、ありがとうございました。

栗生校下の6つの町の町内会長さんたちの会があります。今回のこのタウンミーティングに関しても、6人の町会長さんが集まって、テーマの決定や自分の町から出てきた意見を栗生校下として集約するために、打ち合わせを2回ほどしました。その結果が市長戦略室のほうへ行っておりますので、きょうはそれについていろんな討議がされていくと思います。

タウンミーティングのやり方について、意見がやっぱり町会長会でも出ていました。だけど、今回に関しましては、井出市長さんから提案があったこのやり方、このフォームで1回やってみて、いろんな意味でよかった点とか、変えたほうがいい点が出てくると思います。それを記憶しておいてもらって、次回、来年とか再来年、もし何かこういう機会があるのであれば、皆さんが納得、満足できるような会になるように進めていただきたいと思いますのでまたその辺よろしく願いいたします。

6つ町からいろんな意味の提案、意見が出てきているわけです。有意義な会になって、結果、栗生校下の各町が活性化できて、能美市全体が発展していくような、そんなタウンミーティングの会になればいいかなと思いますし、またそんなふうに持っていただきたいと思います。そういう意味においてよろしく願いいたします。

【司会】

ありがとうございました。次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

日中のお疲れのところ、本当に大勢の皆様にお集まりをいただきましたことに御礼を申

上げたいと思います。

私が能美市役所に初登庁をさせていただいたのが2月27日、きょうは7月27日ということで、ちょうど5カ月です。この節目のこのタイミングで粟生校下の皆さんのところにタウンミーティングに来たことも何かのご縁かなと思っています。

たくさんのご提言、ご意見、ご質問をいただきました。きょうで9回目になりますが、これまでで一番ボリュームが多く、そして多方面にわたっておりまして、これだけ皆さんが市政に関心を寄せていただいているのだなということで、これも感謝を申し上げたいと思います。

冒頭、少し私のほうから市でどんなことやっているかということをご紹介します。その前に能美市の人口の状況をちょっと皆さんにご紹介をしたいと思います。

昨年の10月に5万人を超えたということでセレモニーをりましたが、実はその後、4万9,900人台になりました。7月に入り、7月1日も4万9,900人台だったのですが、7月6日の大安に出生届がたくさん出ました。7月7日の七夕で、婚姻届がたくさん出されて、何と7月26日現在は5万51人。おかげさまで5万人を超えています。

これ、毎日七夕だったらもっとふえたのではないかなと思っているのですが、後ほど未婚化、晩婚化、婚活のことも触れたいと思います。ぜひ粟生校下の皆さんもこのあたりに関心を持っていただければなと思ってもおります。

それでは、タウンミーティングを始めるに当たり私からお話をさせていただきたいと思っています。

このタウンミーティングというのを選挙期間中から公約で述べていますが、私の政治信条である「現地現場主義」「市民ファースト」を進めていくのに当たって、このタウンミーティング、皆さんとの意見交換というのは礎であります。

先ほど5万51人と申し上げましたけれども、実は少子化でございまして、人口がこの後どんどん減っていくという予想がされています。このまま行くと、2040年には4万7,319人になります。それに対していろんな施策を打っていき、4万8,800人を目指します。

加えて、人口が減るだけではなくて、高齢化率、65歳以上の方が現在は約25%ですが、2040年には32%になるという予想です。これは能美市に限った課題ではございません。全国的な課題ですが、能美市においてもそんな状況です。

少しでも、この状況を何とかしたいということで10年後に向けて能美市の魅力を発掘、発信していきたいという思いです。

じゃ、その能美市の魅力を発掘、発信をしていくことでどんなことが起こるのかということなんです。

まず一つは、移住・定住を促進させるということです。生まれるお子さんの数が少なくなっているんで、人口をふやすためには、この粟生校下の人はずっとここに住んでもらいたい。それから、ほかの市町、県外からこの粟生校下に移住してきてもらいたい。そのために、この能美市の魅力をどんどん発信をしていこうということでもあります。

それから、能美市に住んでいただいても、働くところがないと移り住んでもらえないので、企業誘致を進めたり、地場産業を振興させたりしていきたい。そのことによって、財源も確保できるわけです。

それから、ふるさと愛の醸成ということで、粟生小学校、寺井中学校、県内の高校を出て、例えば首都圏や中京圏、関西圏の大学に行き、そのあたりの企業に就職しようかなと思っている子に、もう一回粟生に戻ってきてほしい、粟生はいいところだよと伝えたいということです。

それは、概念的にいいところと言ってもだめなので、例えばこの能美市というのは高校生まで医療費は無料であり、電気代が全国一安い。それから、おいしい水もあるし、皆さんの素敵な笑顔も待っているということを粟生小学校のときから、寺井中学校のときから言い続ける。そうやって、みんなに粟生ファンになってもらって、大学行っても戻ってきてもらう、そんなことをしていきたいと思います。

「能美市」と書いてありますが、我々は生まれ育ったところなので、当然のように「のしみ」と読めます。ところが、東京に行って名刺を出すと、「のうみしさんの市長さんですか」と言われてしまいます。

それから、能美市っていうのは、住みよさランキングが4年連続全国トップテン入りしましたが、魅力度や認知度というのは400番台だったり、600番台だったりして、あまり世の中に知られていません。

何とかこの能美市をみんなに知ってもらおうと思って、こんなポスターつくりました。このポスター、市内のいろんなところに張ってあり、東京駅、京都駅、大阪駅、金沢駅、小松空港、高速道路のサービスエリアにも張ってありました。

これは、藤田誠さん、能美市大成町ご出身で、アートディレクターでアサヒビールのコマーシャルをつくった有名な人です。その人と梅佳代さんという石川県能登町出身の、人物の写真撮ったら5本の指に入るというぐらい有名な人に、その人にポスター作成をお願い

いしたら、能美市というのは子育て環境が素晴らしいところであり、能美市を象徴するというのはやっぱり子供たちの笑顔ではないかと言って、辰口中央小学校に行って写真を撮ってもらい5枚のポスターにしました。ビデオもつくりました。

このポスターの左下にQRコードがついていて、携帯電話をかざすと能美市のホームページに飛びます。このポスターのおかげで、最近、能美市のホームページのアクセス数が伸びています。

それからビデオはのみチャンネルで今、1時間に1回ずっと流れています。おかげさまで好評をいただいています、このように能美市のことをPRしています。

この間、辰口中央小学校のところに行ってきた、出演している子供たちに会ってきました。みんなとっても明るく、学校入った途端に「こんにちは」と言ってきました。粟生小学校も明るいですが、本当明るい。子供たちみんなに「こうやってビデオ、ポスターに出て人生変わったか」と言うと、「何も変わらない」と言っていたので、そのうち絶対いいことあるよと話をしていきました。本当に皆さん明るい子ばかりで、この明るい笑顔をいつまでも守る、守っていくように私も取り組んでいきたいなと思いました。

能美市の魅力ということで、皆さんもいろんな魅力を感じていらっしゃると思いますが、私なりにどんなことが魅力かということを挙げます。

例えば子育て環境が素晴らしい。それから、福祉とか医療の制度が充実している、自然景観が素晴らしい。それから、自然災害が少ない。震度4以上の地震というのは、10年前に能登沖地震があつて以来、観測されていません。

それから、台風が来ると天気予報で言っている、いつの間にか白山が守ってくれるのか、大きな台風の被害も最近はありません。この間は土砂災害警戒情報というのが3回鳴りましたけれども、何とか大きな被害が及んでいるようなことにはなっていません。

それから、コンパクトで町会・町内会組織がしっかりしている。きょう、ここにも目の前に町会長さん皆さんいらっしゃいますけれども、能美市というのは84平方キロメートル面積があつて、74の町会・町内会があります。その町会・町内会長さんがいらっしゃるおかげで、本当に我々行政のほうもいろんな政策がスムーズに進められるし、町会長さんからいろんな皆さんのご意見をいただいて、反映させていただいているということで、本当にありがたいなと感謝を申し上げたいと思います。

それから、文化、各種団体の活動が本当に多い。これは、寺井地区公民館を予約しようと思っても、なかなか予約できないというぐらいに、いろんなことをやっっている。

それだけコミュニケーションが図られているわけですし、それからまちづくりなどにも関心が高いということだろうと思います。

それから、ものづくりのまちということで、こちらには粟生の工業団地があるので、皆さんもご存じだと思いますが、世界に通用する企業さんがたくさんあるということです。

それから、交通アクセスがいい。これは皆さん、案外気がついていらっしゃらないかもしれませんが、国道8号線、加賀産業道路があって、そしてタントの前の道、あれ福島で行き止まりになっていますが、今度あそこに橋ができます。そうすると、小松製作所の粟津工場から金沢港まで一直線につながる道が新たにできます。

それから、能美根上駅まで行けば、金沢駅まで約30分で行ける。小松空港に行けば、そこから札幌、仙台、東京、福岡、沖縄、上海、韓国、台湾に行ける。それから、金沢港まで行けるということで、実はすごく交通アクセスがいいです。それは市民が享受できるだけでなく、それだけ県外からもたくさん来ていただけるということになるし、ものづくりの企業さんにとっても物流の交通の利便性が高まっているということになります。

それから、特産品といえば、このあたりでいけば九谷焼、お米、大麦、地酒、丸いも、ゆずがあります。

それから、観光資源はフィッシュランド、古墳、動物園、松井ミュージアム、里山、温泉、九谷陶芸村とたくさんある。

それから、大学があるというのは、大きな魅力であり、北陸先端科学技術大学院大学があって、いろんなまちづくりで我々もお世話になっています。それから、寺井高校がある。高校生が町を歩いている、自転車に乗っているというのはやっぱりにぎわいの創出にもつながります。

それから、各種ランキングが上位ということもあります。

いいことばかりではありません。実は財政状況、決して明るくありません。福祉費の比率がどんどん高くなっているので、それを補っていくために財源を確保していかなければなりません。

それから、アセットマネジメントというのは、老朽化している公共施設を修理していきましょうという話です。能美市には水道管が全長で約430キロあります。これ、順次直していかなければなりません。一気に直したらいいのですが、お金もないし、穴がたくさんあいていると交通に支障がありますので順次直していきます。水道管だけではなく、橋や、道路も直していかなければなりません。

それから、今回のタウンミーティングで一番質問が多いのは公共交通。高齢者の足の確保、これが一番多いです。きょうもたくさんいただいています。後から少しご報告できればなと思います。

それから、広域連携の強化ということで、能美市というのは人口が減ってくる。そうすると、単独でできない行政サービスが出てくる。それを近隣の小松市、川北町、白山市と連携を強化してやっていくということです。

能美市の魅力を発信していくということをシティプロモーションといいます。市役所の1階に今までそこにいろんなものを置いていました。ここをもうちょっと活用するということで、九谷焼のいいものを置いてあります。もうしばらくしたら能美市の企業さんがつくっている製品や特産品を置いたり、生け花展や書道展をやったりと、多くの市民にここに来ていただいて、そしてまた能美市の魅力を再発見してほしいなと思います。

それから「広報能美」、これ5月号から変えました。その中に、各町会長さんに出てもらうコーナーをつくりました。出ていただくことによって、町会長さんに自分の町の魅力を宣伝してもらおうと思います。

74町会があって、1回当たり3つしか出られないので、全部で3年かかります。アイウエオ順でアの人は早いんですが、ヨの人は時間かかりますが、必ず出てもらいますので、楽しみにしてほしいなと思います。

【司会】

それでは、“井出市長と語ろう「10年後の未来」”をテーマに皆様からご提案、ご意見を頂戴してまいりたいと思います。

① 歴史、文化、伝承、伝統の継承について

【司会】

最初のテーマは、歴史、文化、伝承、伝統の継承についてです。このことについて、何かご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【栗生町民】

ご承知のように、少子・高齢化社会の進展がもたらす社会的影響につきましては、地域経済を支える労働人口が減少し、地域経済の縮小によりまして、先ほども話ありましたように、市税が減少し、近い将来、従来どおりの水準での行政サービスの提供が困難になってくるのではないかと思います。大都市への経済一極化に伴いまして、地方都市、とりわ

け農山村には少子・高齢化や過疎化といった慢性的な問題に悩まされ、疲弊し、限界集落から崩壊の危機に瀕する状態となっているとされております。

平成の大合併から12年、本市は地理的条件の有利さから数々の企業誘致に成功し、民間企業による宅地開発も積極的に行われ、さらには子育て支援施策の優位性から順調に人口も推移し、先ほども話のありましたように、住みよさランキングの上位に位置するまでになりました。

一方、旧来の市街地では後継者難から廃業、廃止に追い込まれる自営業者、高齢者世帯や高齢者単身世帯が急増し、空き家も同様であります。10年もすれば一層拍車がかかり、空洞化し、町なかには日中行き場のない高齢者ばかりとなるような状態です。

住みよさランキングが上位と称しましても、市内には娯楽施設や大型商業施設もなく、近隣にあっても交通弱者にとっては貧弱な公共交通体系では行きようもなく、特に若年層にはこの地域には魅力がないと言われております。

また、市内にある企業につきましては、撤退する企業もあり、さまざまな問題の行く末も今後の雇用情勢や市の財政状況あるいは市の市政進展に大きく影響する不安材料でもあります。

こうした中、町会・町内会はこれまで地域コミュニティの主要な担い手として役割を果たしてきましたが、近年、多くの町会・町内会が後継者不足、役員の高齢化、固定化によりまして、活動の停滞、縮小を余儀なくされております。

とりわけ、地域の伝統行事であります祭りや芸能は、少子・高齢化による後継者不足から存在の危機に瀕しております。

伝統行事は、地方文化の指標となり、地方文化の振興に寄与するとともに、地域コミュニティの維持と安定のかなめと言われております。しかし、行事を支えてきた地域の高齢化、少子化は深刻な問題として地域に横たわり、将来的に解消される見通しもなく、地域は疲弊し、極めて弱体化せざるを得ない状態であります。

目に見えない地域の文化、伝統等の衰退、崩壊は、目にみえる有形の文化財や資産と異なりまして、必ずしも地域住民と行政とが一体となって有効な施策がとられてきたかという疑問視せざるを得ない状況ではないかと思っております。

地域コミュニティの縮小、崩壊は、やがて市政進展と市の魅力喚起に大きな影響を与えてくるのではないかと。決してこれは看過できない問題ではないかと思っております。

そこで質問、提案であります。

行政におきましても、民間団体と行政の協働によるサービス内容の充実や地域支援を図る新たな公共という意識を持って地域づくりを進めていく必要があります、同時に、子供のころから伝統行事に親しみ、郷土愛を育み、地域とつながることによって、自然と地域コミュニティの維持と安定化の後継者として地域の希望となり、次世代への育成を図るシステムづくりが、行政からの支援が必要ではないかと思っております。

さらには、公益的な事業をみずから立案し、実行する地域への財政的な支援制度や、地域づくりを支援するための専門的な人材派遣も必要ではないかと思っております。

この点に関して、井出市長の見解をお伺いしたいと思います。

そして最後に、これは意見ですが、我々はさきの選挙で熱烈支援の中で井出市長を誕生させたと自負しております。選挙戦を通じまして、パンフレットや選挙公約で骨格的な政策を知っておりますけれども、就任1期目の最重要行政課題は何か、あるいは地域課題は何か、それらを実現するために戦略、戦術、作業工程、目標指標、町会・町内会や地域住民が協力すべきことは何かについて、井出市長から雄弁に聞くのがこのタウンミーティングであったほうがよかったかなと思っております。

どうしても校下単位で個別的地域課題をすると、いささかちょっと戸惑いを感じます。ぜひこの秋までには井出市長のほうで行政経験や知識を研さんされまして、各町内会のほうから要望がありましたら、市長単独で出ていっていただいて、胸襟を開いて行政に対する切実な生の声なき声を聞き取っていただき、市政に取り入れられ、名実とも現地現場主義の市民派市長として長く市政のかじ取りをしていただきたいなと思っております。これは希望でございます。

【井出市長】

まず、最後にいただいた質問から答えます。最大の課題は、やはり人口減少問題だと思っております。それに向けて、先ほど申し上げたような政策をしっかりとっていくということです。移住・定住の促進、そして企業誘致、地場産業の振興、交流人口の拡大等々に取り組んでいく。それを進めていくのに当たって、まさにシティプロモーション、能美市の魅力を発信していくということを今最大限に掲げておりまして、この間の6月の補正予算のときにも、今申し上げたような政策を後押しするような予算組みをさせていただきました。

タウンミーティングのあり方ですが、まずはこうやって町会・町内会単位でさせていた

だき、並行してテーマごとのタウンミーティングもやりたいと思っています。

先日の婦人団体協議会さんとのタウンミーティング、それから若手農業の方々とのタウンミーティング、それから今後は文化団体とのタウンミーティングも既に予定が入っています。私の思いからすれば、九谷焼と子育て世代、そんなテーマごとのタウンミーティングもやっていきたいなと計画しています。

ただ、おっしゃったように、本当に膝を交えていろんな会話もさせていただきたいなと思っています。個別に、五、六人でアットホームな形で意見交換もさせていただきたいなと思っていますので、またそんなご案内をいただくか、またスケジュールをとらせていただければなと思っています。

順番が後先になって恐縮ですが、少子化になってまちづくりや、それから市の行政、それからコミュニティに対して関心が薄くなってきているのではないかということはまさにおっしゃるとおりだと思います。

実際にそのアンケートをとった結果が私のところにもあり、時代の流れの中で就職している人のサラリーマン化や単身世帯の増加、日常生活の利便性が向上しているということで、地域のつながりをあんまり重んじない人が多くなってきているというのは、これ社会現象なのだろうと思います。

とはいえ、やはり一人では生きていけないと思っている人が多く、実際には困ったときに助け合う、そんなコミュニティが大切だと言っている人も実際には多いというのも実態であります。

特にこの粟生校下というのは、本当に隣近所の人たちの顔がわかる、そんなよいまちなのではないかなと思っています。ただ、そんな中で、獅子舞をやろうと思ってもなかなか、壮年団、青年団の集まりも悪いということも存じ上げています。

今、能美市としてもこのあたりの現状をどう打開をしていくかということで、まちづくりの出前講座で市民と一緒にこのまちのあり方を語ろうというテーマを設けた出前講座をやっています。講座名が、「これから10年のまちづくり」という出前講座であり、市の職員がその町に赴いて町の方と一緒に話し合いをします。能美市には74町会あって、町会の中でもまたいろんなご意見の方がいると思うので、そちらにお邪魔して、事情をゆっくり話し合って、そして方向性を一緒に確認をし合って進めていくことが、遠回りですけれども一番間違いのない、進め方なのではないかと思っています。

それから、私自身もこうやってタウンミーティングやいろんなところに赴かせていただ

いて、直接市民の話を聞いて、それを市政に反映をさせていきたいという、そんな思いでもあります。就任したときに市の職員の皆さんに、「皆さん、ぜひ市役所の中にとどまらず、どんどん町に出て行って、行事に参加して、直接市民と触れ合って情勢を見て、それを一緒になって市政に反映していこう」という呼びかけもさせていただいています。

そうやって「現地現場主義」「市民ファースト」を、私だけではなく、市の職員全員がそんな思いを持って取り組んでいくことで地域、市民の皆さんのお声を市政に反映し、最終的には皆さんが笑顔で暮らしていただける、そんな能美市になるのではないかと考えています。

【末寺町民】

今回の市民タウンミーティングの開催に際しまして、町会の役員でどういう提言をしたらいいかということを少し相談し、何人かの意見が出された中で、私がそれを集約し代表して提言させていただきたいと思います。

歴史、文化、伝統の継承ということですが、もう一つ、観光、市のブランド化というテーマにも関係するかもしれませんが、よろしくお願いします。

先ほど市長の説明の中にも、観光資源の中に古墳があるというお話がありました。それで、末寺町としては、和田山・末寺山古墳群の膝元にありますので、その関連のことについてです。

和田山・末寺山につきましては、ご存じのとおり、たしか昭和50年だったと思いますが、国の指定史跡として指定を受けております。現在の公園の実態につきましては、雑木、ササダケ、雑草のクズのツル等が繁茂して、観賞をする方が公園内に容易に立ち入ることができない状況になっており、肝心の史跡めぐりが非常に厳しい状況です。

それからまた、どこも同じですが、最近、ハクビシンとかアライグマ、カラスなどの有害鳥獣の絶好の巣窟となっておるということで、周辺の住民の生活、農業生産に大変支障を来している状況です。

そこで、史跡公園の利活用を促進するという観点から提言をさせていただきたいと思います。

史跡公園は、指定史跡として単に開発を禁止して、現状のまま据え置くというものではないはずであり、今後はもう少し観賞者の入り込み条件の整備、そういったものを進めていくべきではないでしょうか。

また、史跡公園は、地域住民にとっては生活圏に隣接している里山であるという意味合いもありまして、さらに公園の周回の道路は、散歩コース、車両の通行路など、住民の生活基盤を形成している状況にあります。そのことに鑑みまして、雑木の伐採、それから雑草、ササダケ、クズの徹底した除去を通じた里山の保全、生活環境の向上に努めるべきではないでしょうか。

加えて、史跡公園は加賀平野の平野部に位置する丘陵として周囲360度が見渡せる希少な立地条件にあります。このことから、北は金沢市から南は加賀市まで、また東は白山から西は日本海まで広く眺望できる絶好の位置にあるということです。この立地条件を生かして、史跡の展示機能、そういうものに加えて、白山の展望台あるいは日本海の眺望台の整備による集客機能を付加してはいかがでしょうか。

また、小松空港に着陸する航空機の眼下によく見える位置、我が家も飛行機の中から確認することができますが、そういう絶好の位置にあります。これは秋常山の前方後円墳が発見されたときにも、この飛行機の上から専門家の方が見てわかったということでもあります。そういう位置にあることから、例えば先ほど市長は、能美市は名前を知られていないということをおっしゃっていました。どこにあるのかはさらにわからないだろうということで、飛行機からあの下に見えるあそこだよということで、山の上に、「ようこそ能美市へ」等の看板を整備するなど、観光PR施設の整備を進めたいかがでしょうか。

【井出市長】

まず、和田山は、私は小学校のときにスキーをしていた覚えもありますし、商工会青年部時代にはあそこで和田山祭り、桜祭りでやきそばをずっとつくっていたという思い出など、皆さんと一緒ぐらいいろんな思いがあります。

まず、もうすこしきれいにしてほしいということですが、実は、あその木を刈ったり草を取ったりするのに大体年間1,000万ぐらい使っています。なかなか予算をふやすことは難しく、引き続き一生懸命していくということです。

それで、壮年団の皆さん、商工会の皆さんに清掃に入っていただいていますし、皆さんがきれいにしたいという意識もあると思いますので、すみませんが、能美市としても、もうすこし頑張るかなというところです。

それから、ハクビシン、タヌキの話です。たくさん出ているということもわかっています、私たちも、いろんなこともやっています。そんな中で、例えば栗生には、狩猟免許を取得している人が4人ぐらいおられます。また、ぜひ末寺でもそんな方もふやしていた

だけないかなと思っております。我々も一生懸命しますが、なかなか追いつかないので、その辺も協力してもらえないかなと、こっちもお願いです。

また、厄介なのがカラスです。本当に厄介で、実は今、金沢市がカラス対策でいろんなことをしているという話を聞いており、能美市も金沢市へ勉強に行っています。その辺をいろいろ聞いて、能美市でも導入できないかなということを検討し始めています。

それから、展望台にしてはどうかという話です。たしかに眺めがいいのですが、実は指定公園なので、何か建てることに制約があるということです。こちらもできるだけことはやるということにさせてほしいのです。

ただ、やっぱり史跡公園、古墳公園をそのままにしとくのはもったいないなという思いで、博物館をテニスコートあたりに新しく建てたいなと思っています。まだどんな建物になるかというのは今からですが、私の思いからすると、能美市のいろんな歴史、現在の能美市はこんなまちですとかことを、そこの博物館に来るとわかる、ふるさと愛が醸成できるような、そんな博物館にしたいなと思っています。そんな博物館にすることによって、能美市の小中学校に何回も来てもらいたい。また、展示を固定すると一回来たら終わりにになってしまうので、展示替えをすることで何回も足を運んでもらいたい。

あのあたりには防災センターもありますし、今度、警察署も新しくなる。それから、史跡公園もあるということで、まさに能美市民があそこに集うような、そんな場所、エリアにあのあたりを変えていきたいなと思っております。そうすると、また古墳に興味を持ってもらって、行く人もふえてくるのではないかと思います。そのために例えば遊歩道をきれいにして、和田山だけじゃなくて、末寺山にもたくさん登ってもらえるような、そんなこともしていきたいと思っています。

それから、この間雨で中止になりましたが、能美市は、健康なまちづくりを目指そう、一生懸命歩こうということで古墳ウォークを企画しました。春にはウォークイベントで桜ロードを歩きました。第2回目は古墳をみんなで歩こうという計画をしたのですが、雨が降ってしまいました。今度、あらためて9月に開催しようと計画をしています。そんな形で能美市の財産である古墳をもっと市民に触れ合ってもらおう、それからあの場所にたくさん来てもらおうという計画をしながら、もっとにぎわせていきたいなと思っています。

② 観光、市のブランド化について

【司会】

次のテーマは、観光、市のブランド化についてです。お願いいたします。

【秋常町民】

今回のメインテーマが、“10年後の未来”ということで、10年先がどうなるかという観点で考えてみました。

秋常の10年先はまず人口がどうなっとるか。年齢がどうなっているかと思うと、先ほど冒頭でもありましたけれども、減る。それから高齢化するというのはもう明らかです。

そんな中で、能美市もどうなるのかということを考えたときに、やはり何をやるにしても先立つものがきつと要るはずですよ。能美市の財政の半分ぐらいが交付税などで、自分で稼ぐのは税金だと思います。税金の中でも、住民税というのはもう人口で決まってくるし、残りは産業関係でしか入ってきません。

では、どういうものが今から伸びていく、要は税収がふえるものについて考えると、今、この市の中で税金を落としている産業というのはどういうものがあって、それぞれがどれぐらいの税金を納めているのか、要は市に寄与しているか。強いところを伸ばす。ショッピングモールも欲しい、まちの店もよくしたい、観光もやりたい、あれもこれもと言っていたら、5万やそこの市で、もう薄く広くにしかないだろうということです。やはり10年先、20年先、市の中の柱になるものは何かというのを数字で分析して、伸びるものに集中的にやっていくということをやってみたらどうかと思います。

さらに、それでも広く浅くではなく、日本一あるいは世界一につながるようなものを持たなければなりません。日本中トラック走らせて「能美市」だとも書いても、能美市って何かあるということでないとい誰も人は来ないと思います。

例えば先端大学あたりは、あそこにはあれがあるからというので飛行機に乗ってくる人や新幹線で来る人がいると思うのですが、そういったものが能美市にあともう1つか2つあって、日本中で「能美市」と言ったら、「あ、あれの能美市だな」となるように、そうすると、自然とそれにまつわる企業、産業なり、コンベンションができて、そしてそれに連なって商業や人口がふえてくるかなと個人的には思った次第です。

ということで、もう一回言うと、税収・数字で能美市に寄与している産業は何かというのを分析して、そこに1点集中で育てていく。その中から日本一か世界一を1つか2つつくれば、自然と人もお金も寄ってくるのではないかと思います。

【井出市長】

まずはおっしゃるとおりです。それをどうやって進めていくかということだと思います。

能美市というのは、財政面でいえば一般会計で約220億円。そのうちの約30%が市民税です。市政を潤沢に運営していくためには企業誘致を進める、そして地場産業を振興させるということが大変重要であります。

冒頭にも企業誘致をどうやって進めていくかというお話もさせていただきました。能美市というのは、これまでは水を魅力に企業誘致を進めてきました。ただ、水は今御承知のとおりのような状況です。今はどちらかというと、交通アクセスがいいという面を前面に押し出して企業誘致を進めていこうということで、結果的に来てくれた企業があります。企業側にとって何が魅力かということを我々が紹介をしていって企業誘致を進めていくということだと思います。

それから、どんと税金を納めてもらえるようなところがあれば、それはいいということはおわかっています。やはりそればかりに頼ってしまうと、逆にその会社が撤退してしまうとあまりにもリスクが大きいということがありますから、やはり適切な会社は何社か立地していることが重要だと思います。

それから、雇用という面でも、やっぱりいろんな職種があったほうが、多くの市民の皆さんがそこで働いていけるのではないかなと思います。

それから、企業誘致を進めるに当たって、今まではどちらかというと理系の大学を出られた方が働ける、いわゆる工場関係が多かった。ただ、文系の優秀な大学を出られた方が働きたいと思っても、行くところというと大体県庁、銀行、新聞社、電力会社ということになります。いわゆる本社機能をもう少し能美市に持ってきて文系の大学生も働いてもらえるような、そんな会社も誘致できればなと思っています。

それから、能美市の魅力の一つの中に、ある企業が進出された、工場を増設された。これは私が企業誘致をトップセールスするに当たって、とっても大きな後押しになります。一部上場、超優良会社がそこに進出しただけでなく、やっぱりその居心地がいいから、さらに増床しようということはやはり大きなメリットになると思っています。そんな魅力を発信していきたいと思っています。

ただ、今、企業さんが言われているのは、人材が不足してきているということです。この間、ある会社が新しく竣工しました。従業員を将来的には増やしたい、でも実は優秀な人材を確保できるか不安ですというお話をされていました。まさに人材をどう確保してい

くかということが次の課題になってこようかと思います。

それからもう一つの課題は、新たな工業用地を確保していかななくてはなりません。とあるところに計画をしているのですがいいこともあれば、課題もあって、そんな両輪をいろいろ回しながら、多くの市民の皆さんに働いてもらい、そして永久的に税収を落としてもらえるような、そんな企業誘致を進めていきたいと思っています。

【秋常町民】

私は、能美市の水道水がおいしいことはふるさとの自慢であり、住んで実感できる魅力の一つだと思っています。

そこで、手取川水系の水の恵みと扇状地帯、能美市を結びつけたブランドを図ってはどうか。目指すのは、水で潤い続ける能美市です。とはいっても、最近の地下水の低下で県水道を導入し、このままでは水で潤うどころか、水で苦しむ羽目になりそうです。ここはやはり県や国へ陳情を行い、手取川の伏流水の目詰まりを解消していただかないと解決しないだろうと思っています。

また、国交省が治水の観点でしか動けないのであれば、治水で川の流れを変えていただくのも有効ではないでしょうか。岩盤を崩せとは申しません。少しだけ砂利をよけていただければいいと思いますが、いかがでしょうか。

【井出市長】

本当におっしゃるとおりです。私もふるさと能美市が水で苦勞するとは思ってもよりませんでした。うちの母親も毎朝ずっと朝起きると水道の蛇口ひねって水出しているので、何をしているのか言ったら、カルキを飛ばしているというのですが、しばらくやめてくれと言ってしばらくやめてもらっています。

今、水不足は何で起こっているのかということなのですが、手取川の上流での崩落がその原因の一つなのではないかなと言われていますが、やはり雨の量が少ないということがどうも最大の原因のようです。

これ実際に調べましたら、白山市の上流のほうの水量計のデータですが、2008年から2014年の年間に降った雨の量が3,000ミリ、それが2016年は約1割減っています。それから、雪の量も、白山の河内観測所の2008年から2014年の平均の降雪量は年間で576センチ降ったそうです。それが2016年は283センチしか降っていません。半分以上になっています。どうも降雪量や、雨水の量が減っているということが最大の原因のようです。

おっしゃるとおり、崩落の土砂が堆積している影響もあるのではないかと、そんなことを言ってらっしゃる専門家の方もいらっしゃいます。そのそれを取り除くのにダムを放流すればと言う人もいます。我々も実はそんなこと言っていました。ただ、これがなかなか流せない、いろんな理由があるそうです。

【秋常町民】

中国の黄河ではダムの水を流して、サンドウォッシングというのをやっていました。それがちょっとすごい濁流になって、砂を流すということをしていたので、提案・意見に記入しました

【井出市長】

何とかこんな状況なので、引き続き流せないか交渉をしていきたいと思いますが、いろんな制約があってハードルは高いです。

【秋常町民】

ここの水道水は本当においしい水だと思っております。これをやっぱりもう少し発信していただければ幸いです。

③ 公共交通の充実について

【司会】

テーマは、公共交通の充実についてです。

【吉光町民】

うちの在所の中で、このタウンミーティングについて話し合いを前もって一回しました。公共交通、のみバス、これの利用率が少ないです。

例えば野々市なんか行くと結構人が乗っていますが、能美市は乗っていない。これは何かというと、便数が非常に少ないということがあります。

それで、調べてみたら、寺井地区や根上地区や辰口地区をそれぞれ回る循環バスを見ると、吉光は午前中に1本と午後1本です。それで、例えば循環バスに乗って、根上方面へ行こうとすると、マリータウンのところで乗りかえる。それから、辰口方面行くときでもどこかあの辺で乗りかえるということになります。そうすると、吉光から午前中9時8分に出ますが、マリータウンにつくのは9時19分です。そこから根上方面へ行こうとすると、連携バスが来るのが10時14分と1時間ほど待つということです。それから、辰口方面へ行こうとすると10時55分で、つまり、1時間30分ほど待つことになるわけです。ですから、

非常に使いにくい。

あるいは寺井高校まで歩いて行けば、連携バスが直接出ているものはあります。基本的に、今言うように、乗り継ぎで行こうとするとせいぜい午前中1本、午後1本で、連携バスとの乗りかえ時間の待ちが非常にあるので利用しづらいということがあります。そこでいろいろ提案です。連携バスについて調べてみると、一応通勤とか通学のための配慮は結構されています。午前中もあるし、夕方もある。だけど、さっきそこに一番困っている日中の利用については非常に使いづらいということです。

そこで提案です。自分の提案としては、連携バスを残します。もう一つ、このバスについてもいろいろ問題があり、日中に高齢者などが使おうとしたときに、家からバス停までの距離が遠いのです。

実は、4年ぐらい前にバスの沿線でもどこでも乗りおりできるように、フリー昇降してくれないかと提案しました。警察のことや、危険である、それからバスの運転手が安全確保できないなど、いろんな話をされまして、4年間凍結されているような状態です。

そういうできないことを、まことしやかに理屈をつけていうのは皆さん名人なので、市役所の人に申しわけないけれども、一向に実現しない。それで、そこをもう一度考えてもらいたいのです。例えばうちの在所の人で、私の足でしたら130〜40メートルぐらいですと2分ぐらいで行けます。だけど、ちょっと在所の足の悪い年寄りの方を見ると5分ぐらいかかる。だけど、その5分というのは朝出るときは5分です。でも、仕事して帰って、自分の用事を済ませて帰ってくると、疲れて果てて、帰りは10分から15分ぐらいかかる。休み休み帰ってこないといけません。

それからもう一つ、フリー昇降ができないということであれば、今、例えば我々の在所の中を行くと、大体300メートルに1ヶ所停留所があります。だけど、その中で何カ所か、停留所を追加したい。普段からほとんど乗りませんから、停留所あっても素通りすればいいので、そんなに変わらないと思います。そうすると、また何か安全面についていろいろ言われます。そしたら、安全な停留所の定義を一度提示してもらって、そうしたら我々はそれを見て、この場所がいいのではないかとということを提案できます。

また循環バスは非常に利便性が悪いということで、在所の中でいろいろ出た話です。それは「各在所で1台バスを持つということです。

例えば吉光町ですと、大体人口1人当たり1,000円ぐらいの補助を打ってもらい、そうすると、5万人だったら5,000万ぐらいの金がかかりますが、循環バスを廃止します。

一応市の人に聞くと、この能美の市バスに幾らぐらい金かかっているのかと聞くと、8,000万から1億ぐらいという話でしたので、1億なら半分の5,000万ぐらいなら出るとおもいます。市バスを3つ廃止して、各在所でバスを持ち。補助金をもらって小さなバスを持って運営する。

例えば吉光でしたら750人ぐらいおりますので、それでいくと75万です。あと吉光だけではだめでしたら、例えば吉光と三道山と一緒に1台確保する。そうすると百二、三十万ぐらいになると思います。東任田と例えば緑町で1台持つ、そんなことをしていけば、もう少し細やかな公共交通を提供ができるのではないかと。法律の問題がいろいろありますのでいろいろ見ないといけないですが、それもだめなら、タクシーの割引券を出すなど、そんなことも一つ考えてもらいたいです。

今、80過ぎるとみんな免許証返納の話が家族で出ます。結局それをやっても、細やかに車であちらこちら行けないということが問題になっているので、今言ったように、各在所ぐらいでバスを持てば、免許の返納率もふえて事故も減るのではないかと考えております。

【井出市長】

本当にいろいろと調べていただき、提言もいただきまして、ありがとうございます。冒頭申し上げたように、この公共交通、のみバスのご質問、ご要望が一番多いです。

まず、取り巻く状況からお話をします。平成28年の6月に実際に利用者の調査をしました、まず、バスというのは全部で6台持っていて、連携バス3台、循環バス3台を動かしています。

連携バスの1車当たりの乗車数は平日11.3人、休日8.2人。循環バス、寺井地区、平日2.4人、休日2.4人。根上地区、平日4.5人、休日3.1人。辰口地区、平日2.7人、休日1.6人。本当にあまり乗っていただいていません。

では何もしていないのかという話ですが。実は、こののみバスのダイヤとルートを決めるため、アンケート調査をしてダイヤとルートを決めています。その後に実際に市役所の職員がバスに乗って、皆さんから要望事項をもう一回確認をするということを何回も繰り返しして、今の状態があります。

それでも、何とかしなければなりません。結論を言う前に、まずフリー乗降の話です。私も、これはいいのではないかなと思いました。ある会に行ったときに10人ぐらい高齢者の方がいて、停留所まで遠いと言うので、どうすればいいかと聞くと、迎えに来てくれと言われました。しかしAさん、Bさん、Cさん、みんな迎えにいくと、目的地までの時

間が30分で行けるところが1時間、1時間半になってしまいます。

結局、フリーに乗せるということは、まずは運行に時間がかかります。それから、定時運行ができないという支障があります。それから、おりるときも、ある程度車の運転免許を持っている人だったら、「100メートルぐらい行ったそこのカーブミラーのところでとめてね」っていうかもしれませんが、「ああ、そこや、そこやぞ」となかなかうまくおりたいところを言えない方もいると思います。急にとまってしまうこともあり危険だということで、フリーというのはなかなか難しいということになります。

【吉光町民】

運転手がそう言っているのではないか。それは違うと思う。

【井出市長】

それがそのフリーにできない理由が、3つぐらいあるわけです。

それで、ご提案があったように、のみバスはのみバスとして運行して、それを補完できるような、そんなもう一つ何かをできないかなということを考え始めています。

そこで町内会でやったらどうかという話をされていました。これ、いろんな法律があって、町内会でやる分にはできるみたいですが、無料で乗せてあげないといけません。お金取ったらだめだそうです。本当に補助金で運営できるかなということもあります。お金となると国の認可が必要です

今、考えているのは、のみバスがあつて、それを補完できるような別建ての、いわゆるオンデマンド型というのですが、そんなことをやれないか検討し始めました。

それで、それをやるのに当たっては、やっぱりどうしても乗る人からお金取らないといけません。どれぐらいの負担割だと皆さんに使ってもらえるのか、それからその金額で成り立つのかということを市役所の中でいろいろプランをつくって、将来的には実証実験をやって、それでまた皆さんにいろんなご意見を聞いて、この公共交通を見直していきたく思います。

【吉光町民】

今市長は1車2.4人と言いました。例えば。2.4人ではダイヤは乱れないと思います。それが10人になったら乱れると思いますか？

【井出市長】

はい。ええ。それは乱れると思います。

【吉光町民】

私は、乱れると思えません。

【井出市長】

思います。2.4人やったら乱れないと思います。でももっとたくさんの人に乗ってもらった話ですね。ですからフリーにしたかどうかという話ですね。ということは、2.4人ではありません。10人とか15人の人に乗ってもらう話です。そうなってくると、やはり定時運行が難しくなるのではないかと思います。

【吉光町民】

10人だったら本当に乱れるのか、一度、やってみたらいいと思います。本当にそうなるか。

【井出市長】

ほんなら、ちょっとフリーについては、今そう言ってもだめかと思いますので、それはちょっと一回考えてみます。そんなところに支障があるのだということとはご理解いただきたいなと思います。

【市民】

私は八十歳を過ぎていますが、子供のころ、栗生バスというがあり、フリーで手を挙げて乗っていました。あのころもう何十年昔と今と比べると、個人の1軒のうちでも3台も4台も車を持つようになった。うちの前はしょっちゅう車が通ります。

だから、非常に難しいなと思います。【吉光町民】さんのおっしゃることもよくわかります。しかし昔と今と比べてみると、車の通りが激しくなっているので、フリーでの運営がなかなか難しいなと思います。

【吉光町民】

私は全線フリーにしてほしいと言っておりません。できる場所でいいのです。例えば、我々の在所の中だけでもしてくれないかということです。そういう対応が必要な人が住んでいるところだけ、それも人通りの少ないところだけ、まずやってみてくれないかという話です。そこだけ赤線を引いて、ここはフリーで昇降すること示しておけばわかりやすいと思います。

そういうことも考えながら、まずできる、どうやったらできるかを考えてほしい。やれない理由をつくるのではなくということです。

【井出市長】

はい。それもおっしゃるとおりですが、事情もあるということもぜひご理解をいただきたいなと思います。

例えば在所の中だけとおっしゃいますけれども、吉光だけやるというわけにはいかないと思います。その連携バスが、仮に連携バス、巡回バスをフリーにするということを提案した場合に、やはり秋常、栗生、三道山、新保もしないといけません。吉光地帯だけフリーというわけにはいかないと思います。

【吉光町民】

できる在所はたくさんあると思います。県道は難しいと思いますが。だから、市道のそんなに交通量の煩雑でないところはオーケーではないかと思います。

【井出市長】

それもおっしゃるとおりですが、吉光だけするというわけにはいかないのです。

【吉光町民】

三道山もできるし、東任田もできると思います。

【井出市長】 はい。

④ 高齢者福祉の充実について

【司会】

次は、高齢者福祉の充実について、ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

【栗生町民】

高齢者福祉の充実ということで、私、大変寒い思いしていることが多いので、市長さんにひとつ質問をさせていただきます。

高齢者の人口が非常に多くなって、そしてまちの中には高齢者で障害を持った人、支障がある人、あるいはひとり暮らしになってしまった人たち、こういった人たちがこの10年後を見れば、もっとふえていくと思われます。

そうしたときに、今、行政で支援している社会福祉関係の介護とか医療、そのほかのいろんなサービスの手が回らなくなっていく時代が来て、そして放置されていってしまうのではなかろうかという危惧を強く感じてします。

そういう観点から、地域には高齢者であっても健常な方がおいでます。また、ちょっと手助けがなければならないという人もいますし、完全に手助けがないと生きていけない人

もいます、大きく3つのグループに分かれると思いますが、その地域で健常な高齢者が、その地域の高齢化に対して手助けをしていかなければ回っていかないのではないかという気持ちがあります。

しかし、現況を見てみますと、健常な高齢者でも非常にそれぞれのご意見が多様でして、なかなか簡単には応援をしてもらえない、そういう状況も察せられるところがあるわけです。この点に関して、今、能美市さんとしては、今後の高齢者対策としてどのように考えられておられるか、これが1点です。

それから2点目は、老人ホームに入らないとやっていけない人たちについては、これはそのほうが非常にすっきりした形でいいと思うのですが、このごろ見ていますと非常に長い順番待ちをしなければならないという状況です。さらに長くなっていくのではないだろうかということも危惧しています。

能美市さんでは、そういう意味で順番待ちを少しでも緩和するような、そういう施策をお持ちかどうか。10年後をにらんで、高齢者が非常に生きやすい、生活しやすい、住みやすい、そういうモデルタウンをひとつつくっていかれてはどうだろうか。そして、それがうまくいくようであれば、どんどんそれを横に広げていけばいいと考えているところです。

【井出市長】

まさに時代のおかれている状況をつぶさにおっしゃっておられるご質問だと思います。

自分でいろんなことをやることを自助、自分で助けるということだとすれば、我々能美市とすると、いわゆる互助だとか共助というものを市民の皆さんと一緒にやっていけないかということを施策として進めていきたいなと思っています。

例えば、町会長さんを中心にして、地域福祉委員会活動をしていただいたり、それから市の職員がこちらに来て皆さんと一緒に体操をやったりなどそういったものを頻繁にやりながら、決して高齢者の方がお一人ではない。地域の皆さんと一緒にこの地域に暮らしている、誰かが必ず見守っているという、雰囲気、状況を支援していければと思っています。

そのために、市でもいろんなプログラムも用意していますし、それから健康づくりを推進するプログラムもありますので、もしいろんなことでこんなことがあるのかないのかなというお問い合わせがあれば、市に聞いていただければ、またいろんなご案内ができるのではないかと思います。

それから、高齢者の皆さんだけが集うような、そんなモデルタウンをつくったほうがいい

いのではないかというご提言がありました。

例えばオーストラリア、それから日本でも伊豆にそういったところができているという話を聞いています。

ただ、入るのにかなりお金がかかったり、それから皆さんが年を重ねていくにつれてだんだん寂しくなっていくという状況もあるのではないかなという話を聞いています。

そこで、我々能美市は、できるだけご家庭のそばで、将来、生涯、暮らしていただけるそんな仕掛けのほうがいいのではないかということを考えていまして、それを総じて地域包括ケアシステムという言い方をしています。家にいらっしゃって、家にいらっしゃることと不自由なところをサポートしていく。

例えばご自身だけでお風呂に入れないのであれば、デイサービスをご利用いただく。それから、ちょっとご家族が長期間出かけるのであれば、長期のデイサービスを受けてもらうといったご自宅で生涯過ごしてもらえそうな、そんな仕組みを整備していくということとを推進していこうと思っています。

それで、介護度が高い方がいらっしゃって、そんな方が入れるような施設があり、今までは介護度が低い方もそこに入れることになっていたのですが、今はどうしても誰かのケアが必要、誰も周りにケアする人がいない方に優先的に入ってもらうという基準に変わりました。それでできるだけ待ち時間を短くするといった、そんな活動もしながら、高齢者の方にも安心して安全に暮らしていただけるように努めているつもりです。もし何かこんなことすればいいのではないかというご提言があればおっしゃっていただければと思います。

【三道山町民】

地域包括ケアシステムについて、もう超高齢社会を迎えて、団塊世代が75歳を迎える2025年をめどに、国のほうでは全自治体で地域包括ケアシステムを構築するとのこととです。

この内容は、市長がおっしゃったように、高齢者が可能な限り住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるように必要な支援サービスを提供する提供体制を構築すると、こういうことですから、いわゆる施設介護よりも在宅介護で行けと。含めて言えばそういうことですよね。

それはそれで、考えとして肯定できると思います。施設介護でなければならないということは一つもないし、望ましいのはやっぱりおっしゃられるとおりに、自宅で終末を迎えられる、そのケア体制を構築するということだと思います。

要介護状態になったとしても、人生の最後まで住みなれた家族と一緒に暮らすというために、私は一番大事なのはやっぱり入浴ではないかと思います。入浴習慣が途絶えるというのは、要介護状態をますます重篤化させていくということにつながっていくし、そういう意味では、なれた家のふろへやっぱり入っていくということが重篤化の進行をおくらせていく、あるいはむしろ回復させていくために非常に重要なことだと思っています。

おっしゃられたように、デイサービスを利用するということも当然ありますけれども、この10年を見たときに、それで十分に賄えられるのかというと、そうはならないのではないかと思います。やっぱり家で入れていきたいし、入りたい人がいると思います。

これがまた同時に、一番介護者の肉体的な負担です。じいちゃん風呂入れるために嫁さんが腰痛めたという話はいっぱい聞きます。地域包括ケアシステムの理念を語ったり、あるいはシステムを語ったり、医療連携などについて、能美市は非常に先進的な取り組みをしていると思っていますが、そういう意味では具体的なところでネックを解消していくというところにやっぱりお知恵をいただきたいと思っています。

その入浴介助の肉体的な負担を軽減させるために、一体何があるのかというと、どうも国では今、福祉用具のレンタル料の補助でさえ切り下げるというのを出したりひっこめたりしている状況ですから、将来的に国の負担でというのはなかなか望めないとすれば、やっぱりこれは自治体で知恵を出していただくしかない。

現状、そういう理屈な機械があるとは思えませんが、10年後を語ろうということですから、2025年までに、あるいは10年後までには、そのことを軽減させるための理屈な機械が開発されることを期待しながら、あるいはそれを導入するとなると、やっぱり家の風呂から改修しなければならないということも出てくるかもしれません。そういうところにひとつ支援を考えていただけないかなということを、将来の技術開発に期待をしながら要望する次第であります。

【井出市長】

まさにそれもおっしゃるとおりでございまして、どんな制度があるのか調べてみました。そしたら、（介護保険制度で）入浴用のリフトをレンタルするという制度がありまして、これが1割負担で利用すると大体レンタル料月額で1,500円から2,500円ぐらいでそういうものが借りられるそうです。

実際使っていないので何とも言えないのですが、そういったものがあるので、もしこんな情報が必要であれば、また市のほうにお問い合わせをいただければと思います。

それから、浴室を改修したいという場合もあると思います。これは要支援認定者とか要介護認定者といった対象は特定されますが、助成する制度もございますので、そのあたりも一度市のほうにお問い合わせをいただければと思います。

それから、家全体に手すりをつけたり、それから開き戸を引き戸にしたりといった変更の場合も、助成制度があるので、またお問い合わせをいただければしっかりお答えできるようにしておきます。

⑤ 市民目線による行政運営について

【司会】

次の市民目線による行政運営について、ご意見お願いいたします。

【末寺町民】

複数の方から意見、提案がありましたので、私がまとめて提言させていただきます。

能美市が誕生してから10年以上たちますが、市の保有施設、市の関連施設の運営等について無駄がある、ロスが多い、中途半端、そういう意見が非常に多いということで、真に合併のメリットが発揮されていないのではないかと考えております。

市の合併前から引きずっている、あるいは多過ぎる、同じような施設が旧3町ごとに設置されています。まだ耐用年数がある、新しいということゆえに、必要性が乏しいにもかかわらず使っている施設、それから、設置場所から見て市民利用の効率性が悪い施設、そういったものがたくさんあるのではないかと考えて、効率的な市関連施設の設置運営を進めるという観点から提言をさせていただきたいと思います。

今後の人口減少時代を考えてみますと、市政運営上、そういった施設のロス、無駄をなくす、合併のメリットを最大限発揮する、そういった対応が必至だと考えております。

今後の施設の設置等に当たっては、3町のバランスを考え過ぎるとか、あるいは地域エゴを強く言うことを極力廃止して、市内全域からの利用の利便性、効率性を最優先にするといった視点が最も重要だという考えられることから、今ある市の関連施設の設置を徹底的に見直すことが必要ではないか。例えば施設の、統廃合、民間等への管理移管、そういったものを積極的に行うべきではないかと。

こういったことにつきましては、市長初め、選挙で選ばれる方々はなかなか言い出しにくいことだと思いますし、実現しにくい面があると考えられますが、我々市民の立場から、あえて将来の市政を考えて発言をさせていただきたい。実現するまで発言をしていきたい

と思っております。

こうした問題点の原因ということは、もう一つはこれまでの施設の配置場所ですけれども、そういったものの決定過程が市民によくわからなかった、よく見えなかったという問題があったためではないか。このため、今後の施設のあり方について計画段階から、市役所の中だけで議論されるのではなくて、市民にオープンな形で、例えば第三者会議、有識者会議、そういったオープンな会議で審議決定する等の工夫があったほうがいいのではないかというのが提言です。

【井出市長】

おっしゃるとおりであり、能美市の中にもたくさん施設があつて、今から老朽化していきますので、それを直していかなければならない。そう思うと、統廃合を進めていく、いきたいと思います。

今までのプロセスがあまり見えてこなかったというお話もあつたので、ちょっとそのあたりからまず触れさせていただきたいなと思います。

平成21年度に市役所内に行財政改革プロジェクトチームというものを設置して、それで能美市にある299ある施設を統廃合していけないかということで検討を進めていきました。その後に議会で能美市議会行政改革特別委員会というものを設置されまして、平成21年の12月から平成25年の3月、約4年間、議会でも検討を重ねていきました。最終的に平成23年に能美市類似公共施設等統廃合実行計画というのを策定して、具体的にどれを壊して統合していこうということを進めてきました。十分ではなかったのかもしれませんが、一応市民の皆さんにどういった過程で、どういった施設を統廃合していくということはオープンにしてきました。

具体的に言えば、例えば保育園は21園が15園になりました。そのほかにも使用を取りやめた施設が幾つかあります。

例えば野球場が能美市に3つあり、無駄ではないかご意見もありますけれども、野球協会の人に聞くと、使っている、壊されると困ると言われます。

小中学校のナイター、これもみんな古くなっています。しかし、実際に使っている人や、いろんな業界の人、例えば使っている小学生の親に聞くと、壊さないでほしいという声が多くて、本当に困っています。

今後どうしていこうかなということですが、やっぱり使っている人の意見をしっかり聞いて、そしてしっかり説明をしながら、統廃合していかないといけません。やっぱりたく

さん不満が出るのではないかと思って、私も統廃合したい気持ちはありますけど、やはり皆さんに問いかけて、使用状況をしっかり調べて、もし使えなくなったらこの施設を使ってくださいということを丁寧に話しながら、少しずつ統廃合を進めていきたいなと思います。その暁にはぜひ皆様、町会長様の絶大なるご支援を、ご理解を賜りますよう、この場をかりましてよろしくお願いを申し上げます。

⑥ 適正な土地利用について

【司会】

適正な土地利用につきまして、ご意見お願いいたします。

【栗生町民】

私からは、4つのお願いをしたいと思います。

まず1つ目は、栗生町熊田川以北の区画整理について、この土地は、現在、準工業地域で、何でも建設することができる土地です。

井出市長は、Iターン、定住・移住を訴えて選挙戦を戦ってまいりました。県内外の情報提供は現在されておられますが、受け皿となる住宅地が必要だと思っております。ぜひ能美市主導で土地区画整理の実現をお願いしたいと思います。

次に2つ目でございますが、手取フィッシュランドと下清水工業団地の間にある農業振興地域の土地です。合併前までは、ショッピングセンターの計画がかなり進んでいました。しかし、合併後は頓挫してしまいました。

現在、栗生北交差点から根上の福島町までは片側2車線になっています。

また、この道路では、過去に栗生町、新保町、下清水町で5名の方が交通事故で亡くなっております。ぜひ道路の整備ということもありますし、栗生北交差点から出口交差点までの片側2車線化を実現し、ショッピングセンターの誘致をお願いしたいと思います。

また、来年3月には吉原釜屋町にインターチェンジができます。交通の便もよくなり、ショッピングセンターと手取フィッシュランドの融合が期待できますので、ぜひお願いします。

3つ目ですが、新保地内にあります水源地の周辺の公園化とともに、親子、老人の憩いの場として共存できる施設をお願いしたいと思います。

最後に4つ目です。秋常町について、古墳公園、体育館が整備されていますが、環境はよいのですが、新しい住宅を建てる用地が全くなく、若者がほかのまちで住居を求める事

例が相次いでおります。秋常町の周辺のほとんどが農振の用地ということで、住宅が建ちません。都市計画等の線引きの変更、緩和をお願いしたいと思います。

【井出市長】

まず、宅地造成の件ですが、なかなか市で宅地造成してもそれを販売していく力は、正直言って自信がありません。そうなってくると、やはり民間業者をお願いするほうが適切な宅地造成ができるのではないかと思います。幸い、能美市にはそれだけ力を持った業者さんがいらっしゃいますので、やはり民間の力を借りて宅地の造成をしていきたいと思います。

それから、ショッピングモールのお話です。確かにこの能美市に大きなショッピングモールがないので欲しいというお声をいただくことは間違いありません。ただ、最近、近隣に、例えば小松市に新しくショッピングモールができたり、それから白山市にも大きなショッピングモールがあったり、市内にも日ごろの買い物をするのには適切な場所があったりします。将来的にそういった能美市民の需要が、市民の人口がふえて、近隣を見渡すとショッピングモールが足りないという場合には、我々も民間業者をお願いをして建ててもらうということを進めていきたいなと思います。現状では市民の皆さんはそれほど買い物に不自由をされていないのではないかなと思います。将来的にそんなときが来たときには積極的にやっていきたいと思います。

それから、秋常町のこの土地の区分けを見ると、ほとんどが農業振興地域です。これ、はなかなか外せません。そこに家を建てるとなるとある一定の条件をクリアしないといけません。宅地を造成していくというのは、なかなか難しいです。

それよりも、どこか白地を有効活用していくことしかできません。逆に言うと、そんなところがあるのに、何で青地を潰さないといけないのかというのが現状です。

もう一つは、道路のお話です。能美根上インターチェンジが開通については、どれくらいの交通量になるのか、これを調べ上げてインターチェンジがつくられています。このデータを見ていると、その粟生の交差点の交通量はそれほど多くならないのではないかなという予想が出ています。仮にこの予想が大きく変わって交通量がふえたときには、今おっしゃるような4車線化ということも考えていかななくてはならないと思っています。

それから、新保水源地の公園化、何か憩いの施設をつくってほしいという話ですが、どうしても町内会の負担がかかるので、市単独でやるということにはならないと思います。

新保の町会長さんもいらっしゃいますので、新保の町会のほうでここをそういったほうにしたほうが良いという強いご要望があれば、また相談には乗らせていただきます。これはどうしても町内のほうにも負担がかかりますので、またおっしゃってください。

【栗生町民】

一番初めの区画整理の話ですが、結局、道路沿いのところはもう全部何でも建てられる状態になっているから、そこで何か建つと中の地面が全然何もできなくなるからという話です。

【井出市長】

そこはきちんと注意して開発の許可を出していくつもりでおります。また何か不都合が見えたら、ぜひおっしゃってください。

⑦U I ターンの促進について

【司会】

次はU I ターンの促進について、ご意見お願いいたします。

【吉光町民】

U I ターンの推進ということで、私も現役のころ、人探しするときに、金沢に実は人材銀行というものがあります。そこにUターンの人をずっと求め続けていましたが、例えば東京、大阪、名古屋などで仕事をされていて石川県に戻りたいというときに、本人の求める希望職種あるいは希望の給料と、こちら側である企業の求めるスキルと給料がマッチングすることは、ほとんどなかったわけです。

それで、例えば当然能美市の通勤圏内である金沢市の一部にある企業が求める人材を、能美市が広報することもやれるんじゃないかと思います。そこら辺をしっかりと見きわめる人が能美市の職員の中にいるのかということをお聞きしたい。

それから、例えば以前、名古屋市長が住民税10%減税という話をされていました。市長が冒頭に能美市のPRの話をされていました。能美市も例えば移住・定住してきたら、例えば10年間住民税が要らないとなると、とてもPRになると思います。

10年ぐらい無料にしても、これはプラスしかありません。人が来なかったらもともと住民税は入ってこないの、人が来れば上下水道の収入になるし、人口がふえれば消費税の還付金も来るし、ここで世帯がふえれば市内に金を落とします。そんなことも一度考えて、ホームページにのせれば良いのではないかと。

あるいは、能美市全体の住民税も1割か2割下げると、世帯が何割ふえたらペイするかということを一度考えてもらいたい。現役を引退するとあまり住民税を払わなくてもよくなります。どんどん高齢化社会になって、そんな人がたくさんふえてきます。だけど、新しい人が入ってくると、そこからは住民税がある程度下がっても、いろんな金が落ちてくるということで、市のほうでも計算してもらって、一度アドバランを上げてもらえるありがたいなと思います。

それから、先ほど話にもありましたが移住・定住しようとする、住宅地があるかないかという話にもなります。我々のほうも実は土地が結構余っています。田んぼをしていますが、残念なのは10年後の未来というと皆さん農業やめられる人たちがほとんどです。そうすると、多分、吉光の田んぼというのはほとんどが耕作放棄地になりかねない状態です。だから、以前は30件ぐらいが田んぼをしていましたが、今、吉光でやっているのは4件だけです。その人たちももう80半ばぐらいになるとできなくなるし、自動的に耕作放棄地になる可能性もありますので、早いうちから農業振興地域を外す運動をしないといけません。いろんな意味で移住というのは非常に大事なことです。まず能美市に移住しやすいように、東京からでなくても、小松市、白山市から来てもらってもいいと、そのように思いますので、よろしくお願いします。

【井出市長】

いろいろ能美市のことを考えてもらって本当うれしいです。

まず、市の職員にそれだけのスキルを持つ人間がいるかいないかと言われると、これは本当に弱ったなと思います。確かにそれだけの就職の状況だとか、能美市にどれだけの就職先があるかということを熟知しておる人間が専門でいるかということ、今は正直いえません。

ですから、そこは今からしっかり育てていくということだと思いますし、逆に言えば、そんな情報をしっかりと集められるような仕組みもつくっておくということだと思いますから、そこは今からやっていきたいと思います。

それから、住民税を10年間無料にしたらという話ですが、ぜひ私もそれやってみたいとは思っています。そこはおっしゃったように、一回、どれだけ下げられるのか、財政状況を一回見てみます。

ただ、そこには住民税だけではなく、法人税がどうなるか、国庫からどれだけもらえるのか、いろんな絡みがあり、簡単にやれるものでもないのか、どんな手法があるのか、ど

れぐらいまでできるのかということをやってみたいと思います。しかし私の思いからすると、税金をさわるということではなくて、逆に言うと住宅や子育て環境にインセンティブをつけること、例えば家を建てる際の助成や、おむつ代の助成や保育料の無料化といったことで、魅力を出したいなと思っています。

また、例えば子育てをしやすい環境というところで、子育てに悩んだお母さんが相談に行ってもらえる窓口を用意したり、子育てをしているお母さん同士が集まってもらえるサークルをつくったりというような、金銭的なインセンティブだけでなく、精神的なインセンティブの充実も図っていきながら、移住・定住を進めていきたい、そんな思いのほろが実は強いのです。

それから、宅地をもっとつくったらどうかという話があります。これも移住者がどれだけいらっしゃるかということを見きわめて、それで宅地を造成していく。やっぱり需要があって供給があるべきだと思いますので、そこは見きわめながら、宅地や造成をしていくべきではないかと思います

ただ、その一方で、私は宅地を造成してしまうと旧の集落の若い人たちがそっちに行ってしまうのではないかと思います。そうなってしまうと、旧の在所がどんどん人が減ってしまうのではないかと心配があります。宅地造成したとき、ここは在所の人が来たらいけないとは言えないので、どうしても移り住んでしまう。そんな中で、定住を進めるという観点からすると、例えば近居や3世代で住んでもらうという政策をしていって、在所の中のにぎわいを維持していきたいですし、それから高齢者の人と子供たちが一緒に暮らすような、そんなまちづくりをしていきたいという思いがあります。

それから、移住されている方、移住を考えている人たちにも新しいうちを提供するよりも、旧の空き家を活用するなど、何とか新しい宅地ばかりをつくるのではなく、旧の在所のにぎわいを維持するような政策をしながらこの移住・定住を進めていきたいな思っています。またいろいろご意見を聞きながら進めていきたいな思っています。

⑧ その他

【司会】

では、次にその他。今までのテーマ以外に何かご意見ある方、お願いします。

【栗生町民】

これは、厚労省のデータをパソコンと白書の両面から見たのと、その状況でいろいろ教

えていただいたことで、未婚の方が40歳、50歳で非常に多いということです。40歳の男性で35.0%、女性が23.9%。女性の23.9%は、男性と違って給与の高い人はあまり結婚をしたがらないという傾向にあるそうです。そして、結婚相手として「安定した雇用と収入」と答える人が女性で72.4%います。4分の3が高収入で安定した人を選びたいと。40歳で熟知しておられますから、足が長いとか、映画俳優の誰に似るとという方で選ばないということです。あくまでも収入本位という回答が随所に出ております。

そして、何人かに当たってみました。栗生の鉄工団地内でチェックしてみました。これ、そこへ通っておられる人の状況を見ていたら、賃金の格差がすごいわけです。

ここに雪崩現象が今起きておりますのが、スーパーへタ刻遅く行きましたら、外人の買い物客がたくさんいるそうです。この方たちの平均の賃金が年収200万弱だそうです。インドネシア、バングラディッシュ、中国の方がおられます。200万という形が定着したら、同一の作業を40代、50代の方がそこに行っても、能率が一緒であれば200万で経営者は抑えないことには、日本人だから、近隣の人やから、親戚の子やから300万にするということは経営的にはできないと思います。

ですから、あれだけバングラディッシュ、中国の人が来ていると我々は単に思っていますが、賃金をどんどん下げる傾向に来ています。歯どめがありません。

僕は、ずっと大阪での勤めで見ていたら、例えば近くのつくばや豊田の周辺は高収益を上げている企業が多いですから、どんどん年間所得上がっています。

北陸の中でも、福井から見ても、富山から見ても、一番賃金が安いのは石川県です。かつ能美市です。それは、誰でもできる仕事をしている企業しかないということです。もちろん優良企業も世界を優位する企業もあります。

誰でもできる仕事をしている人が、栗生の鉄工団地にいっぱいいたとしたら、中国人が来ても、インドネシアの人が来ても、仕事ができるわけです。郵便局でインドネシアの人と会ったことがあります。5万円を送金しており、聞いたらお父さんとお母さんに送るとのことでした。5万円送って5年間、年60万ですから、300万たまったらうちが建つというのです。そんな人のペースに合わせて200万の給料であれば、結婚できないのも無理ないです。

ハイクラスの企業を誘致すること、小規模であっても、本当に磨けば光るという企業体を育てていかないことには賃金が上がらないわけです。テレビで聞いた話だと40代の人に一番力があるときに、日本の国も行政も民間の企業も一番力があるときだそうです。そこ

が結婚できないという状況にあるという形は、市長ももうちょっと考え方を考えていただいて、ここを磨けば光るという企業を徹底的に支援することが必要だと思います。

もう一つは、市長がみずから、直轄で企業誘致をしていく、大手の企業を熟知した方を何とか雇用して、誘致して行ってほしい。何となく工業高校を出て、そこへ就職しましたと、ずっと200万ということはないけれども、誰でもやれるところでは高賃金は絶対ないはずです。

そして、例えば鉄工団地の中にも給料がほかの約倍のところがあります。亡くなった社長と懇意にいただいていたいました。例えば鉄工所、機械を買えば皆3,000万、5,000万、1億です。1億の機械を投資しても、月に3時間しか動かさないのでは機械買えないわけです。そういう機械を彼が入れて、名古屋にも豊田の本場にも営業マンを走らせて、200時間稼働させるという状況を40社ぐらいでその状況をアテントしているわけです。

そして、一番困るのが、不況で、日本の設備が一番おくれています。本当に中国で出た最新鋭の設備はびっくりするぐらいです。日本人の定年を終えた人が技術指導どんどんやっています。日本は下のほうを見て経営に当たった場合は大変なことになります。そういう面をやっぱり市長、目をあけてやっていかなければなりません。まずやはりこの10年という計画でしたら、若者を育てる意味でもそうですし、企業の設備装備もそうですし、何とかきらっと光る企業集団を能美市に幾つ集められないかと思います。

僕はやっぱり隣の小松市長は、いろんな面で企業体を知っておられます。優秀な人を何人も集めて、誘致活動もやっておられるそうです。白山市もそうです。

そして、撤退する企業もあり、そういう状況を考えたときに、何としてでもやっぱり頑張っている企業を誘致して40歳の人が少なからず500万、600万の給料をもらえるような能美市にぜひしてほしいと思います。

【井出市長】

エールをいただいたと思って頑張っていきたいと、そう思います。

【栗生町民】

登記上は農地になっている土地に宅地並みの税金がかかっています。それはなぜですか。

【井出市長】

ちょっとその辺になると、個別案件になって、その土地がどういう状況であるのかということがわからないと正確にお答えできませんので、また別途、直接お伺いします。

【粟生町民】

粟生校下には、ハリンコという魚がいます。ここにおる方で大体小さいころ、ハリンコと川で遊んだと思います。ところが、最近、川の水も少なくなり、非常に危惧しております。これは、石川県の絶滅危惧種であります。

それで、10年後という未来ですが、とにかくこれを大々的にアピールをしてもらって、公園や会館をつくったり、フィッシュランドと提携したり、そういう考えのもと前へ進んでもらうように、将来について考えてもらいたいのですよろしくお願いします。

【井出市長】

ハリンコの保存に大変ご苦勞されているということは、私だけではなく、市民、そして県の担当者も存じ上げております。本当にいろいろご尽力をいただいていることに御礼を申し上げたいと思います。

今、水不足で竹藪用水が枯れてきている。それから、水質も悪化しているということも存じ上げておりまして、県でもこのままで放っておけないということで、専門の組織をつくって、皆さんと一緒に何とかできないかと検討を始めています。

能美市でも、このハリンコを絶滅させることなく、いつまでも大切に保存できるように考えていきたいと思います。またぜひいろんなことを教えていただいて、我々もどんなことができるかということをご相談をしながら進めていきたいと思っております。いろんな機会を通しまして意見交換もさせていただきたいとも思っています。

【司会】

最後に、井出市長からご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

本当に長時間ありがとうございました。私のほうももう少し短く答えればよかったのですが、できるだけ皆さんにわかっていただけるように懇切丁寧にやったつもりが、長引かせてしまいました。

冒頭申し上げたように、きょうで終わるつもりはなくて、いろんな形で皆さんと今後も対話をしていきたいと思っております。

そして、きょう手を挙げて何か言いたかったと思われた方いらっしゃったと思います。思いのほか大勢の皆さんがいたりして話ができなかったという方もいらっしゃると思いま

す。

ぜひ、集落の集まりにお誘いいただければ、いつでも飛んでまいります。ただ、おかげさんでスケジュールが詰まっていまして、あした来いと言われてもなかなか行けないので、大体1カ月半か2カ月ぐらい前に言っていただけると、またお邪魔させていただけると思いますので、きょうこんなに長引いたことに飽きることなく、お誘いをいただければありがたいなと思います。